

| 教科 | 課題（現状、傾向、課題分析） | 改善プラン（改善のための具体策や取組） | 成果(○)と課題(△) |
|----|---|--|---|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に本を読んだり、物語文の教材に興味をもって向き合ったりする児童が多い。音読の際には、声の大きさや表現を意識して取り組むことができている。 ・伝えたいことを整理し、順序良く話すことや、相手が伝えたい要点を聴くことに課題がある。 ・文章から読み取ったことを基に、自分の考えを書いたり、発表したりする力を高める必要がある。 ・文と文のつながりがうまくできていなかったり、語彙が少ないために伝えたいことを的確に表現できなかつたりする児童が多い。 ・新出漢字の学習では、習得できている児童と、未習得の児童との差が大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・音読の際は、聞き手を意識し取り組むように指導し、言葉の意味を考えながら文章を理解できるように、言葉一つ一つを確認しながら読み進める工夫をする。 ・伝えたいことを精選し、順序立ててメモに書くなど話すための準備を事前に行うようにする。 ・話を聴くときは、自分の考えと比べたり、付け加えたりすることはないかを考えながら、感想を述べ合えるようにする。 ・自分の考えを交流する場を設け、多様な意見にふれることができるようにする。また、それを基に自分の考えを整理し、表現する活動を多く取り入れる。 ・語彙を増やしたり、構成メモを作って作文を書いたりする活動を多く取り入れ、書くことに慣れさせていく。 ・習得が苦手な児童にも、日常に使われている漢字に興味をもてるように、国語「かんじの広場」などを活用して、関心を広げ、繰り返し練習の機会を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ○読み取ったことをもとに、音読劇の活動を取り入れることで、聞き手を意識させ、声の大きさや速さなどを考えて読むことができるようになった。 ○常に「はじめ」「中」「終わり」の構成で文を書いたり、主語・述語を意識して話したりすることで、伝えたいことを表現できる児童が増えた。 △伝えたいことを進んで表現できる児童と、自信がなくてできない児童との差が大きい。 ○友達の見解や考えを知りたいと意欲的に交流する児童が増え、友達の学びをもとに学習する姿勢が高まった。 △新出漢字の学習では、定着にばらつきが見られた。復習を行えるような学習環境の設定や興味をもって学習に臨める工夫が必要だった。 |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> ・足し算や引き算の繰り上がりや繰り下がりのある計算では、意欲的に取り組む児童が多い。 ・文章題を読み、何算で求めるのか把握するのが苦手な児童がいる。 ・自身の考えをノートに書く習慣が付いてきた。しかし、自分の言葉で説明することが苦手な児童が多い。 ・身近なものの長さや水のかさなどの単位を適切に選択し測定することが難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後もすすんで取り組めるよう、けやきタイムの学習で定着を図る。 ・問題把握の際、分かっていることや聞かれていることに線を引く活動や「あわせて」や「のこりは」などのキーワードを基に立式し計算できるようにする。 ・言葉や図、式などを用いて、自分の考えを書き表し、説明する経験を積み重ねられるよう、場を設定する。ペア活動や話し合い活動を設け自分の考えを言葉で説明する習慣を身に付けさせる。 ・始めはいくつ分になるかなど、およその見当をつけてからどのように測る、比べるのかを予想させる。児童自身で経験する、生活の場面で活用していくことで理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた指導やタブレットの活用を取り入れることで、児童一人一人がすすんで学習に取り組むことができた。 ○かけ算カードを活用し、自身の目標に合わせて学習することができた。 ○ペア学習や話し合い活動を設けることで、自分の考えを表現することができる児童が増えた。 △算数が得意な児童と、苦手な児童との差が大きい。 |

| | | | |
|------|--|--|--|
| 生活 | <ul style="list-style-type: none"> 野菜や生き物、住んでいる町の様子など、すすんで調べたり、実際に見たりと活動をする中で身近な生活に関わることのよさを感じていた。 体験してきたことから気付きや自分の考えをもつのが難しい児童が多い。 1年生を案内した学校探検や町探検などでの人との交流を通し、人と関わることのよさや学校を感じたり、地域をよりよくしようとするので取り組んだりした。 | <ul style="list-style-type: none"> 事前に分かることや知りたいと思ったことはタブレットを活用して調べる。もっと知りたいことは実際に見たり、インタビューをしたりする活動を取り入れ地域の人と関わることのよさを感じさせる。 どのような観点で調べればよいか、予め示しておく。グループごとに調べたことや見て感じたことを話し合い自身の考えをもてるようにする。 今後も、他学年や地域との交流を継続して行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○児童が住んでいる地域について、実際に町探検を行い調べる活動を通して、地域の方への感謝や住んでいる町のよさに気付くことができた。 ○他学年との交流機会を設けたことで、相手意識や目標をもちながら学習に取り組むことができた。 △自然との関わりが少なかった。野菜を育てる、季節に触れるなど自然と関わる経験を増やしていく。 |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> 拍を感じながら歌ったり、リズムを打ったりすることができる。 音の高さを感じ取りながら歌う学習では、音を聴くことに集中する時間を設けると変容が見られる。聴くことが習慣付くように指導を続ける必要がある。 鍵盤ハーモニカの演奏は、指遣いやタンギングに気を付けて学習できている。習熟に応じた支援を工夫し続ける必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 拍を感じ取りやすい伴奏の工夫を今後も続ける。2拍子らしさ、3拍子らしさが感じられるように、鑑賞の学習も繋げて定着を図る。 音の高さを視覚的に捉えられる図を提示し、高さを感じ取る手立てとして続ける。聴き方の約束を継続させ、聴いた後に歌うことで感じ取ったことを表現できるようにする。 奏法のポイントを明確にして指導し続ける。必要に応じて、書画カメラで拡大しながら範奏を見せる。演奏する部分を相談して決めるなど、できることを積み重ねながら演奏し続けられるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○拍を感じて合わせることができるようになった。 ○聴き方の約束が定着した。じっくり聴いた後に歌うことで、音の高さをそろえて歌うことができた。聴くことと視覚提示での補助のバランスを考えて、今後も有効な手立てを続ける。 ○今もっている力でできることに一人一人すすんで取り組むことができた。演奏する部分を相談して自分で決めることで、少しずつ力を付けることができた。 △指の位置換えや指と舌を同時に動かして吹くことは、今後も継続して指導し、3年生の学習へつなげていく必要がある。 |
| 図画工作 | <ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって活動できているが、完成を急ぐあまり、仕上げが雑になることがある。 はさみ、接着剤などの用具を使う経験が少ない。 身近な自然や人工物に触れ合う経験が少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> 作例や見本を書画カメラで分かりやすく示し、丁寧に仕上げた作品の良さに気付かせる。 様々な用具を扱う授業を多く設定し、経験を積ませる。 身近な自然物や人工物を観察したり、触ったりする活動を取り入れた題材を設定する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○作例や見本を示すことで、見通しをもって活動でき、イメージを広げることができた。 ○絵の具、はさみ、接着剤等の使い方に慣れてきた。 △工事で校庭が使えないこともあり、自然物との関わりを生かした活動が少なくなってしまった。 |

| | | | |
|-----------|--|---|---|
| <p>体育</p> | <ul style="list-style-type: none"> 得意な分野には、意欲的に楽しんで取り組む児童が多い。 楽しい活動に夢中になり、きまりを守って安全に活動したり、集団に合わせて行動したりしようとする意識が十分でない児童がいる。 体幹が弱く、自分の体をうまく操作できない児童がいる。 自分の課題を把握したり、目標をもって活動したりする児童は少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> 苦手な分野へも意欲的に臨めるように、体を動かす楽しさや友達との交流の楽しさを味わいながら取り組めるように計画を立てる。 運動の前にきまりや集団行動のよさについて確認する。きまりを守ることの大切さを様々な場面で指導する。 体の動きを確認できるように、タブレットの録画機能等を活用し、学び合いの場面を意図的に設ける。 練習カードなどを用いて目標を意識しながら練習させる。児童同士、教え合う場をつくる。 | <p>○様々な運動ができるようになり、「楽しい」という達成感を味わうことで、苦手なことへも挑戦しようと、意欲的に取り組む児童が増えた。</p> <p>○きまりを意識しながら、ゲーム型の運動に取り組めるようになってきた。</p> <p>○チームカードや練習カードの活用や学び合いの場の設定により、目標をもって活動に取り組んだり、運動に向き合う時間が長くなったりした。少しずつだが体力向上に繋がってきている。</p> <p>△運動技能の個人差が大きい。もう少し、学び合いの場の工夫やスモールステップからの活動を取り入れることが必要だった。</p> |
| <p>道徳</p> | <ul style="list-style-type: none"> 教材文を通した発問や役割演技では、積極的に発言する児童が多い。 児童の多様な考えや意見を受け止めたり、認めようとしたりする児童が多い。 今までの経験を振り返り、自分事として考えている児童が少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> 発問をより具体的にするための補助発問、視覚化した教材による範読や役割演技から児童が自信をもって深く考えられるようにする。 学級経営での基盤を大切に、日頃から何でも言い合えるような雰囲気や環境を設ける。自己の振り返りを伝え合う場を設けたり、オープンに考えを表現できる工夫を取り入れたりする。 教材文から自己への振り返りに繋げられるよう、登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて考えられるようにする。導入での発問を自己への問題意識をもてるようにする。 | <p>○発問の内容に対し、今までの自分がどうだったのかを振り返る児童が増えた。</p> <p>○自分の考えや思いを素直な気持ちで表現する児童が増えた。自己の思いを友達や学級に伝えてもよい雰囲気を作ることができた。</p> <p>△一人一人の経験の差が大きい。人との関わりや経験の差から自分事として捉えることが難しい児童も多かった。</p> |